

第3回いわき市環境緑化審議会 議事録

○ 日 時 平成19年11月28日(水) 午後1時30分から午後4時00分まで

○ 場 所 いわき市生涯学習プラザ 多目的室 (ティールンビル4階)

○ 出席委員 (50音順)

1番委員	大谷湖水	11番委員	田子英司
2番委員	尾島將司	12番委員	田仲結香
4番委員	加原世子	14番委員	長谷川孝
5番委員	神谷榮	15番委員	原田正光
6番委員	木田都城子	16番委員	古内榮一
7番委員	草野弘嗣	17番委員	松崎和敬
8番委員	九頭見淑子		
9番委員	吉成隆		
10番委員	高橋仔志子		

○ 欠席委員

3番委員	金子正彦	19番委員	松崎正信
13番委員	谷平雅子	20番委員	武藤眞一
18番委員	松崎智弘		

○ 事務局出席者

都市建設部	部長	高島信夫
	次長	田久三起夫
	次長	上遠野伯正
公園緑地課	参事兼課長	櫛田泰明
	課長補佐	岡崎昇
	主任技査兼事業係長	大楽司
	主任技査兼管理係長	黒澤洋二
	専門技術員	小松光彦
	事務主任	猪狩僚

○ オブザーバー参加

(財) いわき市公園緑地観光公社 フラワーセンター副所長 鈴木忠晴
公益事業グループ 統括 田村俊幸

○ 会議経過

1. 開会のことば
2. 職員紹介
3. 部長あいさつ
4. 会長あいさつ
5. 成立宣言、議事録署名人の指名
 議事録署名人の指名について
 - ・ 審議会委員 20 名のうち 14 名が出席しており、今審議会が成立していることを確認。
 - ・ 会長の指名により、議事録署名人（2 名）を
 神谷 榮委員、木田 都城子委員 に決定。
6. 事務局報告
 パワーポイント画面及び配付資料により、事務局から説明。
 - (1) 緑の基本計画について
 - (2) 緑化行政の現状について
 - (3) 前年度アンケート調査結果について

[質疑応答]

委員	<p>緑の基本計画概要版の P11 に緑化重点地区の推進施策が平成 13 年度に策定されていますので、だいぶ進んでいるものと思いますが、進み具合はどの資料をみればいいのでしょうか。</p>
事務局	<p>基本計画の推進施策については、地区毎に区分して特徴を整理していて、このような活用をして進めていったらという整理ではありますが、進捗状況については、緑の基本計画の数値目標で説明しましたとおり、一人当たりの公園面積、緑化協定面積、保存樹林面積の数値目標があり、それに対して平成 18 年度末の進捗状況は表記のとおりになっているというところがあります。</p>
委員	<p>パンフレット P 9 の整備事業の現状にある予算の推移ですが、平成 19 年度が 3 億 1 千 4 百万で平成 18 年度に比べて半額以下になっているということで、一人当たりの公園面積の将来目標 21.75 m²/人は平成 27 年度の目標であるとなっておりますが、このように事業費が減額になっている中で、目標達成に向けての見通しはどのようになっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>財政状況が非常に厳しい状況にありますが、また、人口も減少傾向にあるということで宅地造成等についても進捗が低いところであり、都市公園としては、宅地造成に並行して新たな公園の整備が図られてきましたが、なかなか進まないという状況です。そのほか、趣を異にしたところで、いわき金成公園があり、市民のボランティアで整備する里山公園が動き出し</p>

	<p>ており、面積が約 95 ha ありまして、ボランティア活動が活発化して供用がされれば、数的には一人当たり 3 m²ぐらい増えるということでありませす。これまで整備された公園のストックを活用していくということと、長期的に緑化推進を図っていくということで着実な整備に努めていきたいと思っております。</p>
委員	<p>緑の日に市民に花苗の無料配布が行われていますが、予算が減少傾向にあるにもかかわらず無料で配布していく、続けていこうとしているのはどうしてなのでしょう。</p>
事務局	<p>緑の日は、特に環境が大事だと言うことでこういった取り組みの日として制定されたのかなと思います。緑の日ということで緑化推進の重要性を市民に理解してもらえよう花苗の配布を行っているところでありまして、現在は市内 5 箇所主要な公園で配布しているところで予算も減少していく中、緑化推進に努めているということでありませす。また、もっと有効な方策もあるのではないかと考えており、行政としても見直していくことも必要だと考えておりまして、審議員皆様のご意見をいただければなと思っております。</p>
委員	<p>日常的にオープンガーデンいわきという会の中でオープンガーデン運動を進めておりますが、その会の中での経験から申しますと、人にとって必要な植物は自分のところで不要なものがあります。種にしても苗木にしても自分ではいらなくても他の人には必要なものがたくさんあって、なにかものを買ってプレゼントするよりも、なにか市が交流の場を設定して、市民が花や苗などをバザーのような形で持ち寄って交換しあったり、又は小額で販売できるような場を設けることで交流が活発になり、緑に対する意識が高まりとてもいいことになるのではと思ひませすし、これであれば市もさほど予算を使わなくてもいいのではないかとと思ひませす。</p>
委員	<p>公園のパンフレットは、フラワーセンターなどは載っていないので都市建設部所管の公園のみの紹介となっているが、緑の基本計画についても都市建設部所管のものだけなのでしょう。</p>
事務局	<p>パンフレットについては、都市建設部所掌の公園緑地であり、緑の基本計画は、いわき市全体の緑として捉えております。</p>
委員	<p>農林水産部が扱っている石森山環境保全林や林務課の「きずなのもり」や「四季の森」など一応は入っているわけですか。21世紀の森公園の中にも公園に類するものがいくつかあると思うのですが、これらは入っているのですか。</p>

事務局	<p>基本計画の中には自然公園から河川敷も一応緑ということでの捉え方で全体を位置付けているところですので、緑に関する情報につきましてはここに網羅されているというふうに考えております。</p>
委員	<p>説明された金額が緑化についての市全体の金額なのか公園緑地課が扱っている金額なのか。そこを聞いたかったのですが。</p>
事務局	<p>都市建設部で所掌している公園となります。</p>
委員	<p>そうなりますと一般市民は、都市建設部はこれだけやりました、他の部はこれだけやりましたよりも、いわき市全体でどう整備したかということが問題であって、いわき市全体で緑化推進に関わっている金額がわかるようにした方がいいのではないかと。市民に対してどう整備したかの視点で説明された方がより親切ではないでしょうか。今後そのようなことも考えていただけたらと思います。</p>
事務局	<p>緑の基本計画は緑を守るなどの視点での基本計画ですから、政策をこのような方向性でいきたいと思いますという緑を全部対象としています。数値目標という形になると都市公園の数値という表現になってはいますが、なかなか全体を表しづらいこともあって、将来の数値目標もそういう形にしているのだと思います。都市公園法に基づいて告示した都市公園を整備してもイコール緑かという緑ではない。公共区域であるが緑ではない。では、緑はどのように捉えるのか。いろいろな議論をしていただくことで今までの固定観念で持っていた考えがそうではないのだ、ということがみなさんの議論の中で引き出すこともできます。今後、都市公園イコール緑という表現は緑の基本計画の中では好ましくないですが、捉え方としてそのような表現をさせていただく、大きな方向性として全体の具体的な数値としては捉えられていない。数値に出せるかどうかは研究させていただきたいと思っております。</p>
委員	<p>予算関係のところで見ますとP9の整備事業費が半分以下になり、P10の維持管理費については前年度より若干減っている状況、P12の緑化推進事業費につきましても若干減っている。P14の都市緑化基金のほうから推進事業の財源としてある原資の取り崩しもあって、残金を見るとまだ5億近くある。維持管理費や緑化推進事業は、わずかながら減少しているが大きな動きはないというところで、目標に向けての一番の大きなところはP9の整備事業費ではないのかと解釈しているのですが、都市建設部では駅前整備の影響をうけて時期的に一番厳しい時期でしばらくすると回復する見込みなのか、</p>

	<p>今の財政の考え方でこのまま半分以下という傾向が続くのか、これによって目標の見方がだいぶ変わってくると思いますがP9の整備事業費の回復見込みはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>大きな考え方で説明させていただきます。いわき市の財政の中で例えば、都市公園事業を整備するというのは、普通建設費に入ってきます。今年まで一般会計予算規模は1200億くらいで普通建設費という投資的な費用は200億くらいです。どこかに重点的にやらなければならないところが出てくると、どこかで調整しなければトータルの収支が合わなくなるということはありません。いわき市は7割山林と言われ、まだ緑が必要なのかという言われ方もあります。私どもとしても整備された緑も必要という中で予算取りをしているわけです。ある公園に何かを整備する時には大きな予算を取らなければならない。それが終わると待っていたものをやらなければならない。維持管理費の基本的な考え方はゼロシーリングで、本来、公共施設はプラスにならなければならないのですが、コストを考えマイナスにならないようやっていくということで、おおよそ変わらないのが維持管理費です。推進費は果実運用型で基金を銀行に積んだ利子を活用していろいろな推進事業を行うということで基金を積み立てするわけなのですが、事業を推進するためには利子だけの活用ではできないので、基金の取り崩しでおおよそ前年度並みに変らない。利子が高くなってくれば大きな推進事業が出てくるのですが、今の状況では考えられない中で、少しずつ前年度並みの事業をやりたいという考え方が財政に理解された中で進めているのでおおよそ変わらない。事業はあるひとつのプロジェクトが終わるとその活用に努力して進めるので、結果事業費は少なくなるという形で仕事は進めております。</p>
委員	<p>委員のまとめで「学校で草むしりもしない」という意見があったのですが、それと合わせて緑の少年団活動補助の項目を一緒にして何か活動出来ないかなと思います。市内7小学校だけの補助ということが疑問で、例えば額を半分にして14校としたとしても何か活動が出来るのかな。お金がないと活動ができないのかなという感じです。小学校の方にボランティアが入って何か教えたりされたりというのを聞いたのですが、それも連携して活動が出来ればより幅広く人間を育てていく目的を持った活動が広く出来るのではないかなと思うのですが。</p>
事務局	<p>緑の少年団は、子供達の健やかな育成を目的に設置されているということで、緑の少年団の母体は緑の羽根緑化推進協議会そちらが主体になっておりますが、行政の中では緑の少年団に補助金を交付しまして、子供達の緑に対する興味や大切さを理解していただくということで行っております。子供達への緑化思想、緑の重要性についていろいろ知ってもらうため</p>

	<p>に、少年団以外の形でもアンケートで意見が出ていますように、もっと教育の場に緑の重要性を位置付けていく必要がありますけども、非常に重要な課題であると事務局の方でも感じております。現在7小学校で小中合わせて100校ぐらいあるのでほんの一部なのですが、学校の方としてはいろいろな形の中で緑化推進、緑の重要性を教えていっているとは思いますが、この事業費の主旨としては学校の中でも先導的、周りの学校をリードしていくような活動を期待しながら交付をしているというのが現在の考えでございます。</p>
<p>会長</p>	<p>活発な活動をさせていくにはどうしたらいいのか。役所の方で何らかの補助を出しているというようなことを考えていきますともう少し指導してもよいのかなという印象を受けておりましたが、あまり指導は出来ないのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>緑の少年団につきましては、毎年、補助金を交付してましてその実績報告を受けております。その中で毎年充実しているという状況とはなかなか言えないのも現実でございます。学校ですと先生が変わったり、また指導という面でもいろいろあるのかなと感じるわけでございます。課題としては緑の少年団活動の充実ということも非常に重要でありまして、事務局としては他の学校の事例などを機会があれば伝えたり、少しずつ試みてみたいと考えているところでございます。あわせまして出前講座の活用を呼びかけて並行的に子供達の緑化に対する興味を高める意味で活動していく必要があるのかなと感じております。</p>
<p>委員</p>	<p>現在の緑の少年団の窓口はどちらでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>公園緑地課が主とは決まっていますが、緑の羽根募金関係は林務課がやっておりますので林務課が窓口になります。</p>
<p>委員</p>	<p>緑の少年団の応募をもっと増やしてほしいとありますが、応募する場がないということで先ほどの7つぐらいになっているのが現状だと、たまたま来年、緑の少年団の全国大会が福島県でありまして、県内3つに分けて、いわき市でも200人ぐらい集めて海浜自然の家に泊まり7月末に行事が計画され準備をしているところなのですが、ただ手を上げる所が少なくて困っているというのが現状だと聞いています。</p>
<p>委員</p>	<p>今、お話にあったことに関連してなのですが、学校の現場でも例えば緑の少年団があったり、森林環境税絡みで体験学習があったり、それには行政の中で林務課、都市計画課が絡んでいるのかどうか、教育委員会があっ</p>

	<p>たりで、現場の先生方もやりたいという意志を持っていてもなかなか思うようにならない先生もおられるし、出来れば遠慮したいという先生もおられます。限られた予算の中でより効率的な啓蒙活動を行うのなら実を上げるような方法が必要となるが今までやっていたことだけをする、手をあげて下さいと行って出てきた学校にだけに予算をつけるという感覚ではないのかなと感じます。地球温暖化が騒がれている中で、本気になって子供たち、若い人にも理解を深めてもらう活動もしなければならぬと思います。その際に現場の学校でもちゃんと受け入れられる方法を行政側でも伝えることも大事なのではと感じております。実際に山へ子供たちを連れて行くことみんな山に入ること自体が初めての経験であるとのことで、我々も継続的にやらなければならないこととして出来ることはお手伝いしたいと思っておりますので、少ない予算の中、より効果のある方法を各課で調整するのも大事なことと感じました。</p>
事務局	<p>いろいろな意味の示唆というかご意見だと思います。緑というテーマでどのようにしていくかはいろいろな部門も関係してきます。学校の時間が少なくなってきた中で先生は、短縮していろいろなことをやらなければならないのはどうかと思いますが、今持っている考えを果たせるような、果たしてまた構築できるような今後どのようにしたらよいかのテーマを出しながらご意見頂ければなど。貴重な意見をたくさんいただいておりますから、公園という公共空地ではありますが緑という視点でとらえてありますので、みなさんのような専門家の知恵を貸していただきたいと思います。</p>
委員	<p>緑ということ考えたときに木や山など、目に色として映るものが全て緑になっていき、子供時代に思い出に残る木や大人になっても心に響くようなことがあった緑との思い出、体験などを大切にしていかないと、ものとしてだけの木の予算ではなくて大きな意味での緑ということを考えるべきではないかと思えます。近くの小学校の銀杏の木が、危険回避ということではありますが、切られて子供たちが大変残念に思ったことがあり、守っていくということはそれぞれ大切にしていこうという思いがないと育てていくことも難しいし、たいへん大きな問題になりますが、目の届く範囲の緑について自分たちでもっと考えるということを市民に伝わるようなメッセージをやっていただけると良いのではないかと思います。気持ちがないと大きく市民の心が育っていかないのかと思います。</p>
会長	<p>心の問題が大切だということで、今後の施策につなげてもらいたいと思います。</p>

7. 議 事

パワーポイント画面及び配付資料により、事務局から説明。

- ・ 今後の環境緑化審議会について
(テーマ及び進め方について)

[質疑応答]

委員	<p>各委員から前回時間をかけてこのようなアンケートにお答えいただいておりますので、アンケートを中心にもっと議論を深めて、それに対して行政側がどういうお考えでどこまで進めているのかなど、もしくは、委員のアンケートを基にしてそこからもう一度絵に描いた枠の中で議論するのではなくて、個々の議論を深めていって出来上がった形をどのような絵に描くかは行政にお願いをするという形の方がもっともっと活発なご意見が出てきて実質的には時間を有効に使うということになるような気が致しますがどうでしょうか。</p>
会長	<p>現地調査というのは何か一つの例を取り上げて、みなさんで共通理解を図りながら一つの例を議論してみようというような意図があります。それとアンケートと一緒にしてみても思うのですがいかがでしょうか。アンケートは、折角ここまで分析してもらったものですから、これのご説明をいただくといろいろな発想も出てきます。その中で現場を見て気づくものがあるのではないかと、その後で解説をお聞きしながら議論していくと私は考えておりますがいかがでしょうか。</p>
委員	<p>建築士会で保存樹木樹林を10箇所ぐらいを見る現地見学会を行いました。結論として、現地を見ないで事務局の説明を聞いているだけでは実感はつかめないのではないのでしょうか。人知れず何十年何百年と立っている樹木をみたら感動します。現場を一回皆さんで見るのも大事ではないかと思えます。この場で座っていてもなかなか意見を出せないで、ご説明だけを聞く会ではもったいないと思えます。</p>
会長	<p>実地調査をやりたいという計画案ですけどもご賛同いただけますか。(一同はいと返答) 賛同いただいたということで次回は一度必ず現場を見て共通理解を深めて会議にのぞむというふうな流れに持っていきたいと思えますのでお願いします。事務局だけで考えるのはなかなか容易ではないので、みなさんからアイデアをひとつご提供いただければと思うのですが。</p>
副会長	<p>切り口になるかわかりませんが、ひとつ確認しておきたいのですが、基本計画の具現化策というのは、基本計画の中に緑化推進のための施策がありますが、重点的にやっていく施策との関係はどのようなことをやるのでしょうか。具現化をわかりやすい言葉でいうとどのようにやっていくことなのでしょう。</p>

事務局	<p>緑地の保全及び緑化推進のための施策は4つの視点で説明されていますけども、守るといふ所の都市公園で言えば自然環境の保全、生態系の保全、自然景観の保全という形で整理されていますけども、言葉としての意味はわかるがどのように具現化をしていくか。保全にはいろいろな要素が入ってくると思いますが、進め方として市民、行政、企業がどのような形で関わるのか。言葉で表現されているものをより動きやすい形の基準を作れば一番よいのではないかと。</p>
副会長	<p>P102に緑化重点地区の推進施策平地区がありますが平地区でやっていこうということだとまとめていると思いますが、実際やられているのかわかりません。現状と将来のギャップを見てみようということが視察なのですか。計画があるのであれば実際はどうなのかをみることなのでしょうかと。</p>
事務局	<p>そういうことでの目的で現地調査をするということです。仮にフラワーポットなどによる緑化のページがありますが、ひとりひとりが感じる度合いが違うという問題もあります。特に市民が主体にならないといけないものです。市民にやらせる形だけではなかなかつながらない。あるガイドラインを設けることで自ずと行動することにより全体がまとまりひとつの大きな緑化推進につながっていくと考えていければというところがございます。分かりやすく言えば、植栽をする場合いわき市にあった樹木は何かということ。地元にあった樹木はこのようなものがあり、植栽するときはこのようなものを中心にやってみたらどうかなど。樹木の管理においては樹木の特徴をいかせるものを勧めていけるような考え方を目で見てわかる方法をつくっていく。基準的なものに整理することによって、家を建て替える時、庭を直す時などに基準に沿っていくと相対的に緑豊かな街になる。緩やかで長期的な形になるのしょうが基準づくりをしていきたい。基本計画に直結すればするほどより実現的であるというふうには思います。例示集的なもので固定的なものにしないで、審議会で回を重ねるごとに明らかにしていっていただけないかなと思います。</p>
委員	<p>関連してなのですが、13年2月から6年たちますが、市側で現状がどのようなものか実績検討はされているのですか。それぞれの地区ごとの実績検討が必ずしも十分ではないのかなと感じました。実績検討を踏まえて、これは市が、これは地域が、これは個人がやるべきであるということで現場を把握しておかないと、広いいわき市の中で焦点が絞れないのではないのですか。事務局からは、方法論での説明がありましたが、現状を把握してからあるべき姿をイメージしないとなかなか進まないのではないのですか。</p>
事務局	<p>基本計画を読んで数値目標で出しやすいものは出せますが、例として「守る・育てる」という視点の中で具体例をわかりやすくすれば少しは進むの</p>

	<p>かなと。委員が言うように現状把握はというのは数値で表す具現化策も大切な仕事のひとつなのですが…</p>
委員	<p>現実には数値が難しいにしても、身近な公園の再整備などを平地区で何箇所おこなったとかはわかるのですか。</p>
事務局	<p>限りなく出せるものはどの程度出せるか研究させていただきます。例えば身近なところで地元地域の人の意見を聞きながら計画した公園はどのくらいあるのかとか、出せる限りのことはやらさせていただきます。</p>
委員	<p>6年前にやったことが抽象的で具体的ではなかったので基本方針に基づいて推進するように別な切り口から別の観点から考えてみましょうという理解をしたほうがよいということですね。分かりました。</p>
会長	<p>みなさんの希望の場所がありましたら参考にしていきたいと思いますので、なければ事務局の方で今までの議論をうけて場所を設定していただきたいと思います。</p>
副会長	<p>都市公園の中で緑を重視した公園と逆にそうではない緑が少ない公園の対照的な例があれば見てみたいと思います。</p>
事務局	<p>公園は種類によって面積が変わってきます。街区公園同士でそのようなことがあるかというとはほとんどありません。街区公園は0.25haの公園で街なかにつくるような公園です。木が多い、少ないというよりも木の種類が変わってくるかと思います。街区公園、近隣公園、地区公園、都市基幹公園とありますが、都市基幹公園は木がたくさんありますがその違いを見てもらうのはどうか。なるべく工夫しながら探してみます。</p>
副会長	<p>同じ緑でも質が違うとか、イメージさせるものが緑の意識を高めるようなイメージを抱かせる公園とか、もしくは、環境にとってプラスになる公園とか、そのようなものはどうか。</p>
事務局	<p>身近な公園ということで、地域の方と作った公園、行政指導で作った公園という違いは出てくるかもしれません。工夫しながら参考にさせていただきます。</p>
委員	<p>見学箇所での希望なのですが「まちの中のみどり」という内容で風致地区の指定とありますが、それに関連しまして例えばいわきニュータウンの中にある「木のまち」と名付けられた地区がありますが、街路に面したところの緑化という点では非常に理想的なひとつのケースで見るべき価値が</p>

	<p>あるのではないかと思います。通りに面しての緑化という意味で、生垣プラスアルファというような考え方の「シビルガーデニング」という言葉がありますが、ある一区に面してガーデニングすることで街並みがよりいっそう美しくなるということでの結果だと思うのですが、そのような地区も時間が許すのでしたら見学させていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>違う視点での考え方かなと思います。ご意見を反映させていただいて、例えば、建築協定を結んで緑を増やしているような、こういうところもあるよというような所など工夫しながら探して、比較は難しいかと思いますが探してみます。</p>
委員	<p>基本計画のテーマで豊かな水と緑が調和するとあるので、水と緑が調和している事例もみせていただければと思います。</p>
委員	<p>生活空間でパブリックに面したところだけではなく、緑で整えられた憩いのような事例があれば見せていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>部屋の中ということですか。</p>
田仲委員	<p>建物の中です。フラワーセンターのようなハウスではなく建物でグリーンをいかして潤いのある場所になっているような例です。有楽町に出来た丸井のエントランスなのですがすごくきれいだと思いました。そのような場所がいわきにもあれば見せていただきたい。</p>
事務局	<p>出来るだけ探してみます。委員の意見は植え込みとかそのようなことですか。例えば川があって土手の緑もきれいに刈ってあればきれいにみえるのですがそのようなイメージのものですか。水と緑をセットとして、精一杯探させていただきます。</p>
委員	<p>人が近づけるような緑の環境がどのくらいあるのかというのはどうか。</p>
委員	<p>最も自然的な照葉樹林の極相とか、夏緑樹林の極相とか、裸の土地となっている裸地等、完全に壊されている所が多いので、自然の状態の所が見たいと思います。</p>
委員	<p>堤と遊歩道のある、五安ため池あたりもいいのかと思います。</p>
会長	<p>具体的な候補がそれぞれご希望ありましたら役所の方へ連絡を入れてください。</p>

事務局	<p>現地調査につきましてご意見いただきましたが、事務局といたしましては基本的には住宅地、商業地の土地利用の違いを比べられる緑化のあり方、現状がどうなっているかも加えていきたい。道路の緑化、河川の緑化も加えていきたい。出来ましたら高いところから見渡せるような場所があればと考えております。時間の関係で平市街を中心に検討させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>その他、何かありますでしょうか。</p>
委員	<p>来年の緑化審議会は何回程度予定しているのでしょうか。</p>
事務局	<p>今年度 19 年度は 2 回でございます、来年度も同じ回数ということで予算の要求をしているところでございます。</p>
委員	<p>実地見学は別としての会議になるのでしょうか。</p>
会長	<p>それもどのように組み込むか。いろいろな事情がありますから事情を参酌しながら事務局の方で判断してやっていただきたいと思っております。事務局の方で聞いておかなければならないことはないでしょうか。</p>
事務局	<p>現地調査は今年度 2 回目の審議会の中で実施していきたいというふうに考えております。</p>
会長	<p>その他の話題がありましたら出していただいて、もしなければ次回のことにつきまして事務局の方から説明していただきます。</p>
事務局	<p>次回 4 回目の審議会となりますが、現地調査を中心に行っていきたいと思っております。先ほど頂きました意見を参考にコースを検討させていただきます。開催時期としましては、2 月の下旬ぐらいを目標にしていきたいと考えております。詳細な日時につきましては事務局の方から改めて連絡させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。</p>